

証券取引法違反容疑

一月二十三日、ライブドアの堀江貴文社長を含め四名の幹部が証券取引法違反の容疑で逮捕されたニュースは瞬く間に日本を駆け抜けました。容疑が事実とすれば、ライブドアの行為は資本市場の根幹を揺るがすものであり、その責任は極めて重大だと思えます。当局の厳正な捜査を期待したいと思いますが、同時に、これまでライブドアのグレーな取引を放置してきた金融庁、証券取引等監視委員会及び東京証券取引所の責任も極めて重いと言えるのではないのでしょうか。民主党は一貫して日本版SECの設置を主張してきましたが、政府与党は我々の主張に耳を貸さなかつたという事実があります。これは、政府与党の不作為の罪だと認識しています。

竹中、武部氏熱烈選挙応援

自民党は、昨年の総選挙において堀江容疑者を実質的な公認候補者として応援したわけです。小泉総理は「新しい時代の息吹を感じる」と言いました。そして武部幹事長は「息子や弟と同じだ」と言いました。安倍幹事長代理（当時）は「小泉内閣が構造改革をすすめなければ堀江氏が出てこなかつた」と述べました。まさに堀江容疑者は小泉改革の申し子だと言っても過言ではありません。竹中総務大臣に至っては公示日に広島六区において、堀江容疑者の応援に入っています。そして、「われらがホリエモンです。小泉さんとホリエモンさんと私と三人で小さな政府を目指します。構造改革を実現します。」とマイクを持って叫んだのです。経済の専門家として小泉政権を代表する一人がここまで持ち上げれば、投資家も安心して政府自民党の保証のその株を買いたくなるのは当然の事だと思えます。だからこそ、株価の持ち上げに一役買った竹中さんの責任は重大だと言わなければなりません。

このように、ライブドアの問題や耐震強度偽装問題、単にこれは一部の不心得者が起こした事件ではないと認識しています。小泉構造改革なるものが偽装と粉飾にすぎないことを、この一連の事件は如実に示していると思えます。通常、ウソのごまかし方には、隠ぺいと偽装の二種類があるようです。『偽装』とは、例えば本音を突かれたときに『言い方が悪い』などと趣旨をずらして怒って見せることであると聞いた事があります。そう言えば、小泉総理がよく使う手法に、その事実を説明しなかつた『隠ぺい』とともに、ウソをはぐらかす『偽装』も行っている印象を受けるのは私だけではないはずです。国民年金の未納・未加入の問題が大きく取り上げられた時「人生いろいろ」と言い放つたことを思い出してしまいました。

「隠ぺい」と「偽装」